

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25820314

研究課題名(和文)北イタリア3地方における県ドーポラヴォーロ施設の特定とその建築的特徴の解明

研究課題名(英文) Peculiarity of the Fascist's Provincial Facilities for Leisure Built by Opera Nazionale Dopolavoro in North Three Regions

研究代表者

奥田 耕一郎 (OKUDA, Koichiro)

早稲田大学・理工学術院・講師

研究者番号：50454103

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：ファシズム期のイタリアで設立された全国ドーポラヴォーロ事業団は、当時の国民に余暇の機会を組織的に提供した機関である。この余暇の実施のために同事業団は専用施設「カーサ・デル・ドーポラヴォーロ」を建設しており、本研究ではピエモンテ、ロンバルディア、エミリア=ロマーニャ地方の県都におかれた「県ドーポラヴォーロ」について網羅的な調査を実施、この3地方における同事業団専用施設の設置状況およびその現存状況を明らかにするとともに、その建築的特徴を指摘した。この成果から、ヴェルチェッリの事例はイタリア全土において最も規模が大きく特徴に富んだ専用施設として、これまで以上の重要性が指摘されるものである。

研究成果の概要(英文)：Opera Nazionale Dopolavoro (OND), that was formed in 1925 during Fascist rule, was the organization to provide the leisure activities to the Italian people in the era. The OND built its facilities designed solely to be used for the leisure activities and these leisure facilities were generally called Casa del Dopolavoro. In this study, 20 of 22 provinces (except Aosta and Forli) in the three zones in northern Italy of Piedmont, Lombardy, and Emilia-Romagna were researched to find out the Dopolavoro Provinciale (provincial headquarter of the OND) as Casa del Dopolavoro and to clarify their present states. As a result, the architectural peculiarity of the Casa del Dopolavoro was pointed out. Moreover, it must be said that the OND's provincial headquarter of Vercelli was the largest facility of all and it is most important example by its uniqueness.

研究分野：工学 / 建築学 / 建築史・意匠

キーワード：建築史・意匠 近代建築史 ドーポラヴォーロ ファシズム イタリア 全国ドーポラヴォーロ事業団

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、イタリアで 1925 年に設立された全国ドーポラヴォーロ事業団 (Opera Nazionale Dopolavoro、以下 O.N.D.) が行った建築関連の活動について、継続的な研究を行ってきた。半官半民の法人として設立され、国民に幅広い余暇活動を提供し組織的に運営した O.N.D. は、一見して建築と直接的なかわりを持たないように見受けられるものの、建築の領域においても決して無視できない活動を行っていた。この組織的な余暇の提供とは、当時の自由主義国においても試みられたものであるとともに、戦後のイタリアにおいては同様の活動が 1978 年まで存続していたことなどから、O.N.D. はイタリアそしてヨーロッパの近代化過程および近代建築史を再考する上で重要な研究対象であると言える。

O.N.D. はローマの中央事務局を頂点とする中央集権的組織をもっており、ドーポラヴォーロの事務局および施設のうち、県都に設置されたものは「県ドーポラヴォーロ Dopolavoro provinciale」、市町村におかれたものは「市町村ドーポラヴォーロ Dopolavoro comunale」と呼ばれ、市町村配下の分離集落 frazione にも整備された。この設置にあたっては、当時の各種市民サークルの拠点や「人民大学」の施設、市営の温浴施設などの既存施設を接収・転用したほか、民間施設を借用して確保するとともに、ファシスト党の地方支部施設である「カーサ・デル・ファッショ」内に O.N.D. の事務所や余暇機能が置かれる場合もあった。さらに、O.N.D. 専用施設として新築される場合もあり、これらは総称として「カーサ・デル・ドーポラヴォーロ Casa del Dopolavoro」と呼ばれた。この O.N.D. 専用施設については、イタリアにおいても従来網羅的には知られてこなかったものであり、研究代表者はこの専用施設の整備について全国的様相を明らかにするための研究を推進してきた。しかしながら、先行研究に乏しくその建築総数や現存状況なども未知であるため、これをどのように全国的に調査し、明らかにしていくかという課題があった。

2. 研究の目的

O.N.D. 中央事務局の指示を各地方に伝達するハブの役割を果たした県ドーポラヴォーロ施設は、重要拠点として第一に注目されるところである。県ドーポラヴォーロは 92 の県都に設置されており、これに並行して O.N.D. は全国を現在の州にほぼ相当する 15 のゾーン (管区) に分割していた。O.N.D. の建築活動の全国的な様相の解明は研究代表者の一連の研究における最終的な目標であるが、本研究では研究代表者のこれまでの研究において資料が充実するとともにすでに一部で現況調査を実施していた、ゾーン 1 (ピエモンテ地方)、ゾーン 2 (ロンバルデ

イア地方)、ゾーン 7 (エミリア=ロマーニャ地方) における全 22 県を対象に、これら各地の O.N.D. 関連施設の特定と、特に O.N.D. 専用施設の建設の有無を明らかにし、それらの建築的特徴を示すことを目的とした。これはイタリア全土に対する網羅的な把握の第一歩であり、今後の他地方における調査への足がかりとなるものであることから、調査から得られた史料によっては市町村ドーポラヴォーロも研究の対象に含め、さまざまな事例を柔軟に収集することにつとめた。

さらに、このドーポラヴォーロ施設という建築が、イタリア・ファシズムという時代のひとつの側面を明瞭に示す歴史的に重要な建築として広く一般に知られるべきものと認識することから、多言語による理解しやすいビジュアルな内容の小冊子を本研究の成果報告として作成することとした。

3. 研究の方法

O.N.D. 施設の特定方法にかんしては、これまでの研究で次のようなプロセスによる一定の方法を確立しており、これを本研究でも用いることとした。1) O.N.D. が発行した定期行物や、当時流通していた写真絵葉書や古写真から、施設の外観写真を見つけ出し、所在した都市名と外観の特徴を把握する。

2) これら写真を手がかりとして、米 Google 社の提供する「Google ストリートビュー」を用いた仮想的踏査を行い、その具体的な所在地、Google 社による画像取得時における現存を確認する。3) この結果をもとに、各都市において現況調査および文書館・図書館での資料収集を実施する。この方法は、全くの未知であるところから施設の所在地を特定し現地調査を実行する際に最も効率的かつ現実的な方法と考えられ、これを対象都市ごとに反復していく。

なお、史料状況からこの方法を採用することが困難な場合には、地図等から得られた情報によって都市構造を分析しつつ現地にて悉皆調査と史料調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 各ゾーンにおける O.N.D. 施設の設置状況

ゾーン 1 (ピエモンテ地方)

1939 年の O.N.D. 年報は、現在のピエモンテ州とヴァッレ・ダオスタ自治州に相当する区域をゾーン 1 としており、トリノ、アオスタ、アレッサンドリア、アスティ、クーネオ、ノヴァーラ、ヴェルチェッリの 7 県がここに含まれる。本研究による調査では、このうちアオスタを除く 6 県にて現地調査を行ったが、O.N.D. 専用施設としての県ドーポラヴォーロは、過去の研究ですでに特定していたヴェルチェッリの例以外には確認できなかった。これ以外の各都市には、アスティの「カーサ・デル・ファッショ」[1933 年 O. アロイージオ (Ottorino Aloisio, 生没年不明) 設計、現歳入庁アスティ支局]、アレッサンドリア

の「カーサ・デル・ファッショ」[1935年竣工、V.トルネッリ(Vittorio Tornelli, 生没年不明)設計、現国立労災保険事業団]、ノヴァーラの「カーサ・デル・ファッショ」(竣工年、設計者不明、現クエストゥーラ)など、比較的規模の大きな「カーサ・デル・ファッショ」が建設されており、その内部にO.N.D.関連の施設が設けられたと推測される。また、これらが新築によって整備された一方、クーネオの「カーサ・リットリア」は、既存施設の転用・改築(1932-36年)によって設置されており、O.N.D.専用施設ではあるもののパルマ県ドーポラヴォーロの類例として注目される。

ゾーン2(ロンバルディア地方)

ゾーン2はパヴィーア、ベルガモ、ブレシア、コモ、クレモナ、ピアチェンツァ、ソンドリオ、ヴァレーゼの8県からなり、ゾーン内の全8県都において史料調査および踏査を実施したが、O.N.D.専用施設はいずれの県都においても確認されなかった。ゾーン1と同様、各都市にはファシズム期に「カーサ・デル・ファッショ」あるいは行政庁舎が建設されており、パヴィーアの行政庁舎[1938年竣工、C.モランドッティ(Carlo Morandotti, 1895-1940)設計、現パヴィーア県庁舎]、ベルガモの「カーサ・リットリア」[1939年竣工、A.ベルゴンツォ(Alzira Bergonzo, 1906-1997)設計、現Casa della Libertà]など、これら内部に県ドーポラヴォーロの事務所や諸施設が設置されたものと推測される。

ゾーン7(エミリア=ロマーニャ地方)

ゾーン7にはボローニャ、フェラーラ、フォルリ、モーデナ、パルマ、ラヴェンナ、レッジョ=エミリアの7県都が含まれる。このうちボローニャ、フェラーラ、パルマ、ラヴェンナについてはすでに各種調査を行っており、残る3県のうちフォルリを除くモーデナ、レッジョ=エミリアの2都市について現地調査を行った。しかしながらその両都市においてもO.N.D.専用施設が建設されたという記録は得られなかった。したがってゾーン7においてはフェラーラ、パルマの2県にのみO.N.D.専用施設が作られかつこれらが現存すると結論づけられ、これ以外の県都ではゾーン1および2と同様、「カーサ・デル・ファッショ」や行政施設内にO.N.D.関連施設が設けられたと推測される。

(2) 北部3ゾーンおよびイタリア全土における県ドーポラヴォーロ施設整備とその建築的特徴について

以上、イタリア北部3ゾーンにおいては、アオスタとフォルリを除く全22県中20県について調査を実施した。このうちO.N.D.の専用施設として整備された県ドーポラヴォーロは、ヴェルチェッリ、パルマ、フェラ

ーラの3県のみと考えられる。これ以外に、キエーティ県およびバリー県にO.N.D.専用施設としての県ドーポラヴォーロが建設されたことを現地調査から確認しており、これらのほか市町村レベルでの事例や、現地調査に至らないまでも専用施設の設置が確認される市町村を含めて検討すると、都市的な余暇に親しみながらもいまだ発達途上にあつた中小規模の都市に、余暇の総合センターが重点的に建設されたと推測される。このなかでヴェルチェッリ県ドーポラヴォーロは、全国的にみても最大規模と考えられることから、すべてのO.N.D.関連施設のなかでもっとも重要なものと目される。

建築内外の意匠については、これら県ドーポラヴォーロのほか、並行して現地調査を行った市町村ドーポラヴォーロであるピエンツァ市ドーポラヴォーロ(ゾーン8[シエーナ県]1934年竣工、設計者不明)や、これまでの研究で現地調査を行っているイーモラ(ゾーン7[ボローニャ県]1932年、設計者不明)、リットリア(現ラティーナ、ゾーン9[ラティーナ県]設計者不明)の事例も含め、極めて多様であるものの一定の傾向をみることができると言える。すなわち、独裁的・抑圧的な性格を持つ当時の体制が、自らのつくりあげようとする国家のあり方を内外に示しうるものとして建築を重視するなか、余暇の場を提供した「カーサ・デル・ドーポラヴォーロ」は、ファシズムの強制のイメージとは対照的などか親しみのある表情を有しており、先鋭的でないモダン・デザインによって形作られていると言言することができる。

(3) 成果報告パンフレットの作成

以上の本研究による成果をとりまとめた成果報告パンフレットを日本語、英語、イタリア語の3カ国語併記によって作成した。これは申請時より本研究課題の最大の目標としていたもので、本研究の対象であるO.N.D.専用施設のうち、研究代表者が現地調査を行った現存例を一冊にまとめたものである。作成にあたっては、O.N.D.施設として使われた当時と現況を視覚的に比較できるように、写真を主体としながら事例の説明が加えられたものとし、イタリアのみならず世界にも例のないものが作成された。

(4) 今後の課題

以上の成果から、次の3点が次なる課題として導かれる。1点目はイタリア全土において最大のO.N.D.専用施設と考えられるヴェルチェッリ県ドーポラヴォーロの詳細調査であり、2点目はO.N.D.専用施設の事例調査の継続である。特に2点目については、本研究の成果によって、県レベルのO.N.D.専用施設は積極的に設けられず市町村レベルで多数実現した可能性が示唆されたことから、県やゾーンなどO.N.D.の組織上の単位を基礎として、史料収集と実地調査を継続的に実施

していく必要がある。

3点目として、研究の背景に記したよう、余暇の組織化あるいは余暇による国民形成というものが、ファシズムという強制力を伴った体制に固有のものではなく、広くヨーロッパやアメリカ、そして日本など、当時の先進各国においても取り組まれた政治的テーマのひとつであったことに注目したい。すなわち、当時のヨーロッパおよび世界の近代化というさらに大きな文脈において O.N.D.の専用施設がどのように位置づけられるか、これについてのより深い検討が必要と考えられるものであり、さらなる一次史料の発掘と分析に重点をおいていく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計2件)

奥田耕一郎、「バリー県ドーポラヴォーロとイタリア全土における「カーサ・デル・ドーポラヴォーロ」の設置状況の概略について」、日本建築学会大会(関東)、2015.9.6、東海大学(神奈川県平塚市、発表・掲載確定)

奥田耕一郎、「ピエンツァの市ドーポラヴォーロとピエモンテ地方における県ドーポラヴォーロの設置状況について」、日本建築学会大会(近畿)、2014.9.14、神戸大学(兵庫県神戸市)、学術講演梗概集 F-2 分冊 pp.879-890

〔図書〕(計1件)

奥田耕一郎、「ファシズムのイタリア、余暇の建築」、中央公論美術出版、中川武先生退任記念論文集刊行委員会編『世界建築史論集 中川武先生退任記念論文集 西アジア・西洋・南アジア・カンボジア・ベトナム編』、2015、pp.91-102

〔その他〕(計1件)

奥田耕一郎、「カーサ・デル・ドーポラヴォーロ ファシズム期イタリアの余暇建築」、私家版、平成25・26年度日本学術振興会科学研究費補助金・若手研究(B)課題番号25820314「北イタリア3地方における県ドーポラヴォーロ施設の特定とその建築的特徴の解明」成果報告パンフレット、2015.3.

6. 研究組織

(1)研究代表者

奥田 耕一郎 (OKUDA KOICHIRO)

早稲田大学・理工学術院・次席研究員(研究院講師)

研究者番号：50454103